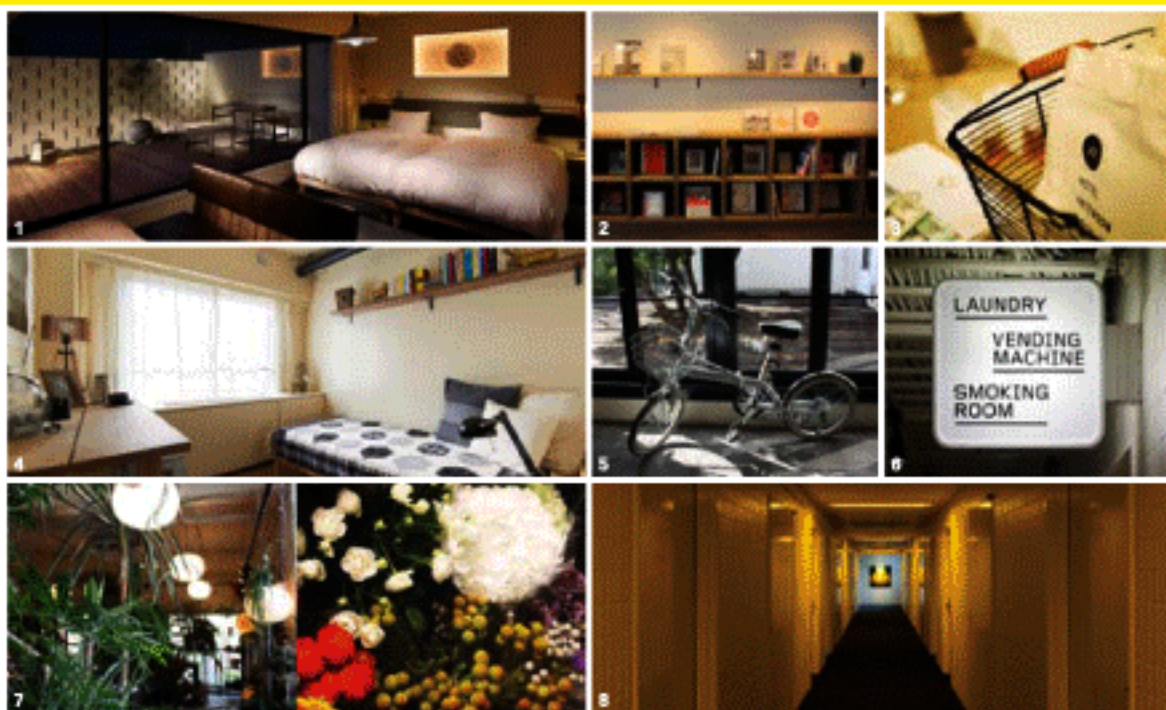


# HOTEL & APARTMENT

ホテル アンテルーム 京都は、友人が集う場に遊びに来たような居心地の良さと京都の街へ出るための支度をさせる場を、そして新しい刺激に満ちた暮らしの場を提供します。

\*"anteroom"とは、「次の間」や「待合室」のことを意味します。

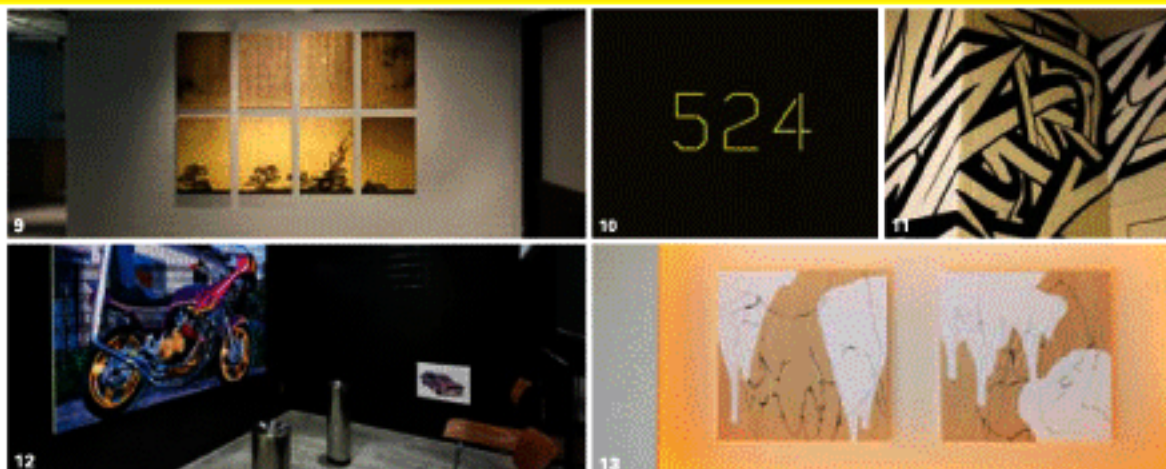


**HOTEL ANTEROOM KYOTO**  
T 601-8044  
京都府京都市南区東九条田町7番  
7Akiyoshi Higashi-kujo Minami-ku  
Japan. 601-8044  
TEL 075-681-5656 FAX 075-681-5655  
info@hotel-anteroom.com

# ART

エントランス空間にあるGALLERY 9.5では、SANDWICHとのアートプロジェクトや関西をベースに活動するクリエイターによる企画展をはじめ、国内外の多数のアーティストやクリエイターの展示を開催しております。

作品の展示や、撮影ロケーション、イベント・パーティーにスペースレンタルもしております。



**GALLERY 9.5**  
Open 12pm-19pm  
TEL 075-681-5656  
g-info@hotel-anteroom.com

# RESTAURANT

行き慣れたご近所の食堂や、気軽に立ち寄れるカフェのように居心地の良い「アンテルーム ミールズ」。明るく開放感のある空間は、イベントやパーティーにもお使いいただけます。

「ANTEROOM JOURNAL」を見たとおっしゃっていただければ、フード&ドリンク10%オフのサービスも。



**ANTEROOM MEALS**  
Open 7am-10am / 18pm-22pm  
Close Tuesdays / Wednesdays  
TEL 075-681-5056  
info@hotel-anteroom.com

1. 用途に応じてお使いいただける61室の客室には、シングル/ダブル/ワイン/テラス付ワインの全4タイプをご用意しております。長期滞在をご希望の方はお気軽にフロントまでご相談ください。
2. 左京区の書店、真文社一風待選セレクションによる書籍を中心としたライブラウンジでは、限定販売のアートブックも取り扱っております。客室への貸出しも可能です。
3. ライブラリーのKIOSKコーナーでは、アンテルームオリジナルグッズや、人気のプロパンシア限定バスアメニティを販売しております。您的思い出にスタッフがセレクトしたおつまみのセットもおすすめです。
4. ホテルに併設されたアパートメントには、住む人のライフスタイルに応じてカスタマイズが可能な50室をご用意しております。1Fの広々とした共有キッチンでは、シェアの醍醐味が味わえます。アパートメントをお探しいの方はお気軽にフロントまでお申し付けください。
5. 無料レンタルできる自走自転車は、近隣の観光にぴったりです。貸出時には、一日中ご利用いただける有料のレンタル自転車もご用意しております。  
\*但し、台数には限りがございます。
6. 1Fには無料でお使いいただけるランドリーの他、自販機、喫煙ルームがございます。\*アルコールはフロントのみの販売となります。
7. 1Fテナントスペースにあるフラワーショップ「Studio2066」には、オーナーの濱中央さんがセレクトしたファンタジックなお花やユニークな観葉植物がインテリアとともに所狭しと並びます。  
Studio 2066 Open 11:30am-20pm 不定休  
TEL 075-694-1114 info@studio2066.com www.studio2066.com
8. 元学生寮の建物を改装した館内のディテールには、当時の風景がそこそこ感じられます。ディヴィッド・リンチの映画を彷彿とさせる黄色の照明がユニークな廊下にも、アートワークが飾られています。
9. デザイナー/アーティストであるartlessの川上俊氏による「moon」。金箔にプリントされた作品の他、レストラン内にも同氏の草紙作品が飾られています。
10. 館内のいたるところにあるサインは、ヴィジュアル・アイデンティティを手掛けるUMA / design farmの原田祐氏によるものです。
11. COMME des GARÇONSの2012春夏コレクションでコミュニケーションを発案した大山エンリコ氏。同氏の手掛けたトイレのアートワークは、男子と女子でそれぞれ違うエアアートになっています。
12. 全館管理の館内の1Fには、禁煙ルームがございます。「SANDWICHES」で展示されていたアートワークは、2012年度卒業の京都造形芸術大学の学生によるものです。撮影・画像展 (SANDWICH GRAPHIC)
13. 全ての客室には、TSCA / Takuro Someya Contemporary Artによりセレクトされた作品が飾られています。ライブラウンジでは、全作品が閲覧できるカタログをご用意しており、それぞれのアートはお買い求めいただけます。204号室に飾られているアートワークは、京都を拠点に活動する松井沙都子氏によるものです。
14. 朝食メニューは、日替わり2種のビタパンサンドイッチの他、セルフサービスでスープ・サラダ・フルーツドリンクをお召し上がりいただけます。朝食費は、フロントにてお買い求めください。
15. レストランやロビースペースを備えるラウンジは、特別な日のお祝いの場として、またイベントや二次会等のパーティー会場としてもお使いいただけます。
16. SANDWICHに所属するアーティストによるトークイベント「SANDWICH TALK」。第4弾では、アンテルームで滞在制作も行ったPrabha Yoon氏(プラーダ・ユーン)をゲストに迎え、ディスカッションを行いました。Artist-in-Residenceに就けるアンテルームならではの取り組みです。
17. アンテルームのWebディレクションを手掛ける松倉早星氏が主催するクリエイターによるクリエイターのためのビジネススクール「NIT WEST」。レストランを会場に、artlessの川上俊氏の演説に合わせて吉田隆史とのトークセッションを行いました。ジャンルを問わず、様々なクリエイターが集うのも、アンテルームの魅力の一つです。
18. 食事やドリンクを飲みながらライブDJの音楽も楽しめるイベント「ANTE GROUND MUSIC」。館内で流れているBGMも手掛けるJazzySportによる音楽が、素敵な時間を演出します。
19. 京都の食材をふんだんに取り入れたカジュアルな食事が気軽に楽しめる「ANTEROOM MEALS」セットメニュー。一品のお皿ひたひただけのアラカトメニューもご用意しております。美味しいお皿とご一緒にご堪能ください。レストラン内には、嬉しい無料Wi-Fiサービスも。

http://hotel-anteroom.com  
http://hotel-anteroom.com/blog  
http://ja-jp.facebook.com/anteroom  
@AnteroomKyoto

# ANTEROOM JOURNAL

Published by HOTEL ANTEROOM KYOTO

## CONTENTS

2-3

### ANTEROOM INTERVIEW

アンテルームに集う人たちの気ままな談義

名和晃平 (彫刻家 / SANDWICHディレクター)

「クリエイターを刺激するアンテルームの魅力とは」

4

### ANTEROOM TIPS

アンテルーム19通りの楽しみ方



2011年春にオープンした「ホテル アンテルーム 京都」は、築23年の学生寮をリノベーションすることで生まれたホテル&アパートメントです。「友人であるアーティストの家」をコンセプトに、エントランスから客室に至るまで既存の建物を活かしデザインされた空間には、そこかしこにアートが飾られアーティストの個性が溢れています。

エントランスからレストランをつなぐ大きなリビングスペースは、世界中からホテルを訪れる旅人や地域で暮らす人々が同じ空間を共有し、思い思いの時間を過ごす場であり、アートや音楽イベントを通して交流できる刺激的な出会いの場でもあります。アパートメントの日常とホテルの「非日常」を融合させた新しいライフスタイルを提案し、常に変化し続ける京都のカルチャーの今を発信し続けるアンテルーム。

創刊号は、彫刻家 名和晃平氏との気ままな談義「ANTEROOM INTERVIEW」、そしてアンテルームのスタッフが厳選した19通りの楽しみ方をご紹介します。

photo:Yoshiro Masuda

HOTEL ANTEROOM KYOTO  
ホテル アンテルーム 京都  
T 601-8044  
京都府京都市南区東九条田町7番  
TEL 075-681-5656 FAX 075-681-5655  
URL www.hotel-anteroom.com  
Email info@hotel-anteroom.com

2012年4月吉日 発行





### クリエイターを刺激するアンテルームの魅力とは

昨年東京都現代美術館で大規模な個展を開催し、ミュージシャン「ゆず」やCOMME des GARÇONSなど様々なジャンルのクリエイターとコラボレーションを行い、国内はもとより世界中から注目を浴びている新進気鋭の彫刻家、名和晃平氏。彼が制作したエントランスのアートワーク「Swell-Deer」「Swell-Tiger」は、世界中からホテルを訪れる人々を迎え、見送る象徴的な存在となっています。自身がディレクターを務めるスタジオ「SANDWICH」とアンテルームによるコラボレーションの出発点ともなったこの作品は、劇的に発泡ポリウレタンをコーティングしたもので、パブリックスペースでの展示は極めて珍しいそうです。

ホテルにアートが入りこむプロジェクト「Spatium SANDWICH」や、併設されたアパートメントに国内外の若手クリエイターのためのArtist-in-Residenceプロジェクト「SANDWICH SATELLITE RESIDENCE」を設けるなど、アンテルームはSANDWICHと様々なコラボレーションを行ってきました。今回は、その取り組みや魅力、そして今後の展望についてお話を伺いました。

Interview&text: Masako Ueda

### ANTEROOM INTERVIEW

名和晃平 (彫刻家 / SANDWICH ディレクター)

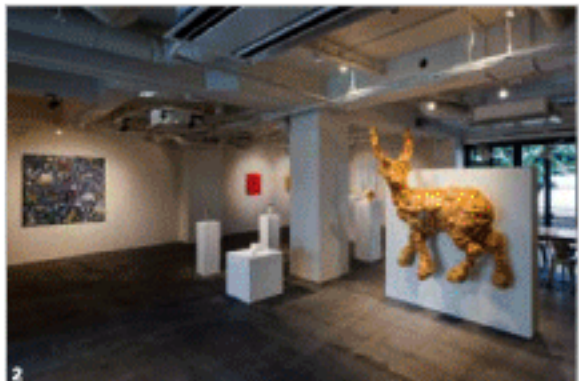
#### ホテルにアートが入りこむ

—ホテル アンテルーム 京都にアートが入り込むプロジェクト「Spatium SANDWICH」では、関西をベースに活動する若手作家や学生の作品を中心にキュレーションされています。スタジオ「SANDWICH」、そして現在 教職をとられている大学でも、教員と学生が一体になるインタラクティブなプロジェクトを実施しておられますが、名和さん(以下N)にとって教える等の魅力は何ですか？

N:「教える」というより、「共有する」という感覚に近いと思います。「同志」って言うのと大げさですけど、同じ志を持つ人達が集まって、だんだんと本気になる人がいたり、やっぱり違うと感じて去っていったり、腹をくくって作家を目指す人が出て来たり。そういう仲間が近くにいるだけでも心強いし、創作のテンションを高く保つことへつながると信じています。

—前回の展示では、ホテルの1階のスペースを使用しましたが、今後このプロジェクトがどんな展開を見せるのか楽しみです。

N:「SANDWICHES」\*1…ふざけたタイトルですね(笑)。前回の展示では、作品の内容や主張で括ったり、グループ展として一つの大きな物語を作ったわけではなかったです。声がかつて直直だったのに、寄り集まってくれた作家達であのような空間がくれたのは凄く良かったです。アンテルームのスタッフからもポジティブなアクションが感じられたので、心地良く展示が出来ました。でも、やり切った感っていうのはまだないです。どこかまだ抱え込んでいるんです(笑)。



1 伏見区宇治川沿いにある三サンドイッチ工場をリノベーションしたクリエイティブアットホーム「SANDWICH」 2011年 展示風景、ホテル アンテルーム 京都 撮影:表恒匡(SANDWICH GRAPHIC)



2「Spatium SANDWICH#03 "SANDWICHES"」 2011年 展示風景、ホテル アンテルーム 京都 撮影:表恒匡(SANDWICH GRAPHIC)

3「Villius#2」 「第14回アジアアートビエンナーレ/ペリパグラデシア 2010」展示風景(最優秀賞) 2010, mixed media 撮影:表恒匡(SANDWICH GRAPHIC)

や虎をブアン振振り買して、そこにワックが突っ込んでガスも割れまくって、最後暴破して終わりたいやつ(笑)。他にはクリエイターが合宿するみたいなイベントも面白そうですね。

—プログラムの延長として、更に一歩踏み込んだ形で何か面白いことができる可能性を感じます。例えば、ホテルの客室が展示会場になったら、どんな展開を作ってみたいですか？

N:アーティストが一部屋ずつ担当するのは面白いと思います。僕だったら作品のカテゴリーごとに各部屋を作る。例えば、壁も天井も全部ビーズ(BEADS)で出来てる部屋。ビーズのお風呂とか。内飾が全て、発泡ポリウレタンで覆われて、スカム化した部屋。他にも、プリズム(PRISM)、リキッド(LIQUID)、グルー(GLUE)などの部屋もできます。グルーを塗り続けて何年も増殖し続けるプラン。天井も壁も床も全部覆っていかとか。そういう完全に一つの感覚で満たされた部屋を作ってみたいですね。(各カテゴリーについては、次ページを参照)

#### 住まいの場、活動の場としてのアンテルーム

—住まいの場であり、活動の場でもあるアンテルームは、名和さんにとってどんな存在ですか？

N:アンテルーム、楽しいですよ。スタッフは、みなさん何か面白いことをしたいって思っている方が多いし、それがやっぱり共感できる部分です。お互い違う立場だけど、一つのステージを共有して何かする。そういうことってなかなか身近な場所では起こらないので、それが実現できるのは良いことですね。

—ありがとうございます。



N:僕にとってアンテルームは住む場所でもあり、アートの可能性を試す場所でもある。SANDWICHの延長線上にお互いやりたいことが重なる部分でまだまだできることがあるんじゃないかなって思います。

—将来的に、アンテルームを舞台にした大きな企画をやってみたいですね。

N:ジャッキー・チェンだけじゃなくて(笑)、せっかくグループデューツもアンテルームに来てし、彼に映画撮ってもらいたいですね。彼、僕に合計4ヶ月以上アンテルームに滞在して、詩や小説を書いたり、D.サリンジャーの翻訳もやっていましたしね。こじばらしくは映画を撮ってないから、彼や彼の友人の監督やカメラマンが揃って、スポンサーも見つかれば、本当に実現できるんじゃないかな。SANDWICHやアンテルームを舞台にした、ショートムービーなんかできたら面白いと思います。

#### ホテルから街や地域に対して発信する

—それが実現すれば、レジアンプログラムから派生したものが形になりますね。

N:そう。レジアンとか展示会だけじゃなくて、プログラム自体にそこから何か派のものが生まれてくるようなアウトプットの機能が備わっていると思うんです。京都って、どんな分野でも自分たちのベースとスペースがあって、新しいことがふわつとできるのは一番の魅力です。

—既にホットな場所に移って行くというより、周りの環境を巻き込んでいくところに可能性を感じます。

N:将来的にはアンテルームの周辺で空いているスペースや工場などを使って、もう少し規模の大きなエキシビションを作っていければ良いと思います。自分達で環境を作っていく。今その最初の段階にいると思うし、そういうところに可能性を感じています。

—これまでスポットが当たってこなかった場所から新たな文化を発信することで、色んなことがやり尽くされて、もうこれ以上出来る事がないんじゃないかという閉塞感を打破していくきっかけになってきているような気がします。

#### 今後の展望について

—その共通点になりますが、4月末には新たにアンテルームを舞台とした展覧会が予定されています。アンテルームの一周年記念と重なるので、盛り期待しています。どのような展示のイメージをお考えですか？

N:作家に声を掛け始めたところですが、今春に京都の盛大な卒業するような若い学生達にも参加してもらいたいです。今ちょうどプログラムの開発も進めています。VIVALDOの自転車、BEAMSのつなぎ、月光任のクッキー帳など。そういったコラボレーションで生まれたアートワークともプロダクトともつかないようなものも展示しても良いかもしれません。SANDWICHで今起きていることはある意味基礎としていて、グラフィックデザイナーも建築家もプロダクトデザイナーもアーティストも、みんな平場でつくっている。そこから生まれ出るものをそのまま見せるのも、面白いかもしれません。

—そうですね。アンテルームも異業種の人が出会ったり言葉をかけなくても、同じ時間や空間を共有できる場所なので、アート、デザイン、建築、食以外にファッションもあるといいですね。

N:前回の展示でもリポテラのタイフツ置いたりしましたし、全然そういうアプリだと思います。アンテルームにBEAMSやSANDWICHのつなぎが置いてあって、それをスタッフが着ても良いですね。そういうクリエイティブなライフスタイルを提案する場所として、アンテルームを使う。色々つながっていきそうですね。

—これからが楽しみです。色々仕掛けていきましょう。

N:ぜひ！ よろしくお願います。

GALLERY 9.5 INFORMATION
ANTEROOM PROJECT
SANDWICH X 京都造形芸術大学大学院 総合造形 名和晃平の共同企画によるアートプロジェクト「ANTEROOM PROJECT」を2ヶ月間に渡り開催致します。
会期: 2012.04.27(Fri) - 06.29(Fri) 開催時間:12:00pm-19:00pm
アフターパーティー(invitation only) 04.27(Fri) 21:00pm-
\*会期中にはワークショップや公開制作も予定しております。

アンテルームのエントランスに飾られている「Swell-Deer」と「Swell-Tiger」は何を表現しているんですか？

「Swell」は、インターネットを介して集められたモチーフのモチーフの表面を、化学反応によって自ら膨張する発泡ポリウレタンという素材で覆った作品です。液性の発泡ポリウレタンを容器のなかで膨らませ、化学反応が始まったらモチーフに成形し、乾かします。乾いたある状態の液体は再び膨らみ、発泡しながら膨らみ続け、やがて固まります。モチーフを300度加熱させながらの行為を繰り返すと、方向性のない入り組んだ突起と彫刻特有の鋭いテクスチャーがモチーフの表面を覆っていきます。



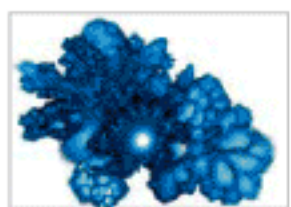
名和晃平 / Kohei Nawa

1975年生まれ。京都市立芸術大学大学院美術研究科博士(後期)課程彫刻専攻修了。彫刻家。「SANDWICH」ディレクター。

「もの」の表面への意識から発し、独自の「PixCell - Pixel(画素) + Cell(細胞-器)」という概念を軸に、感覚や思考のメタファーとしてのマテリアルを多様に変遷し展開する。2009年より京都・伏見区にクリエイティブプラットフォームとして「SANDWICH」を立ち上げ、自身の作品制作から、auのデザインプロジェクト「iida」や、ミュージシャンのPVやステージセット、COMME des GARÇONSとのコラボレーションまで、様々なプロジェクトに多岐にわたる。

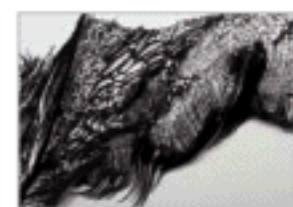
近年の展覧に「L\_B\_5」(メゾンエルメスB層 フォーラム、東京、2009)、「Synthesis」(SCA THE BATHHOUSE、東京、2010)など。第14回アジアアートビエンナーレ/ペリパグラデシア2010最優秀賞受賞。2011年6月には東京都現代美術館で個展「名和晃平 - シンセシス」を開催。2012年秋には韓国・チョンンで大規模な野外彫刻「ManHOLD」を設置、同時に韓国のARARIOギャラリーで2ヶ月の展覧を開催予定。

URL www.kohei-nawa.net
SANDWICH http://sandwich-epca.net/



DRAWING
紙とインクの関係を探るところから始まった「DRAWING(フローイング)」セル(細胞-器-器)。有機物と無機物、ドットやグリッド、ラインやフォルム、整列とランダム、不定形などの概念の試行錯誤が、イメージと物質性のせめぎ合いのなかで繰り返される。

\*"Gush#17"



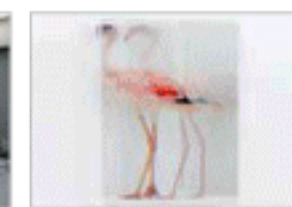
GLUE
無可塑性の接着剤を使用して、素材とフィジカルな感覚を一致させて扱うのが「GLUE(グルー)」というカテゴリーである。

\*"Caterpillar#9"



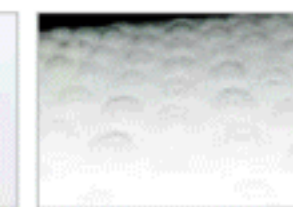
SCUM
「SCUM(スカム)」とは、何らかの液体を凍結/溶解させるとその表面に浮き出る「反片(あく)」を意味している。2つの液相を化学反応させた発泡ポリウレタンの「表皮」は、まるで制御を失った細胞分裂のように、膨らみ、意味や記号的な要素が欠落した「虚ろなボリューム」は、資本主義社会で消費され続ける身体や造形物の洗淨を象徴する。

\*"Scum-Apoptosis"



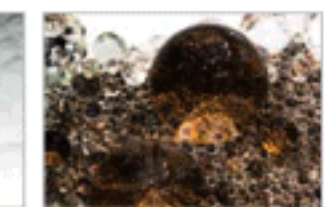
PRISM
インターネットを介して集められたモチーフを入れた透明な箱(セル)をプリズムシートで覆うと、裏面に写っている視点とは異なる視点から見たイメージが立ち現れては消える。こうして箱(セル)のなかで存在するはずのモチーフがリアリティを失い、虚像として湧く。

\*"Prism-Shift"



LIQUID
水やシリコンオイル、界面活性剤、顔料などを組み合わせた液体に泡(セル)を発生させる作品。スクリーンのように白く発光する液面に現れる泡は「PixCell(ピクセル/画素)」を模し、群がりに繋がる音と共に感覚を導く創造の単位となる。

\*"PixCell\_Saturation#4"



BEADS
インターネットを介して集められたモチーフの表面を透明なガラスビーズ(セル)で覆われ、その存在を「発の泡」に象徴する作品。膨らみ続ける泡はモチーフの表面はすべて同じ質感と距離感となり、表面のテクスチャーや色は、無数のセルのなかに取り込まれて解体され、イメージの要素の集まり、つまり「映像の細胞(PixCell)」となる。

\*"PixCell-Double Deer#4"

\*1 SANDWICHES ホテルにアートが入り込むプロジェクト「Spatium SANDWICH」の第1弾として名和氏がキュレーションをしたグループ展。東本屋の名彫師成田を舞台に昨年秋に開催された京都のアートフェア「鎌倉」に同時期に開催された。\*2 プラウダールユン(Prabha Yoon, b.1972) 小泉、評論家、脚本家、ミュージシャンなど、幅広い分野で活躍するタイ在住のアーティスト。2012年 第14回アジアアートビエンナーレにてアンテルームに飾られた「SANDWICH SATELLITE RESIDENCE」にて滞在制作を行った。\*3 ジェローム・デイヴィッド・サリンジャー(Jerome David Salinger, b.1919-2010) アメリカ合衆国の小説家。ニューヨーク市マンハッタン生まれ。主な著書に「ライオンズでつかまえて」。